

泊川水系河川整備基本方針

平成 1 7 年 3 月

鹿 児 島 県

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 河川及び流域の現況	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する事項	3
1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	3
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 並びに河川環境の整備と保全に関する事項	3
3) 河川の維持管理に関する事項	3

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位 及び計画横断形に係わる川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を 維持するための必要な流量に関する事項	5

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 河川及び流域の現況

泊川水系は、鹿児島県薩摩半島南西部に位置し、その源を草野岳(標高488.8m)と園見岳(標高262.4m)の稜線に発し、西流して中流域で草野川、梶山川等の支川を合わせ、坊野間県立自然公園内の東シナ海泊浦に注ぐ流域面積6.9km²、幹川流路延長5.5kmの二級河川である。

泊川流域付近の気象は、年平均気温は約18℃、年平均降水量は2,300mm程度で、4月から9月の半年間の中に年間降水量の3/4が集中している。(枕崎測候所1993~2002年)

流域の地形は、南北及び東側を200~400m級の中起伏火山地に囲まれて、中央に溶岩台地が広がっている。また、地質は周辺の山地に白亜紀~第三紀四万十層群(砂岩、頁岩及びその互層)と第三紀火山岩類(安山岩、凝灰岩等)が分布し、沿川沿いに広く台地を形成して阿多火砕流堆積物(溶結凝灰岩類)が分布している。

流域の山地部はスダジイ群落やシイ・カシ萌芽林となっている。また、中央の台地部は畑地として利用されており、所々に小集落が点在する。河口部の平地は、小さいものの住宅密集地帯となっている。このため、流域内には水田として利用されている土地が上流以外ではほとんど見られない。

泊川の治水・利水・自然環境および河川利用状況の概要は、以下に示すとおりである。

① 治水の概要

本水系では、これまで抜本的な治水事業が実施されていなかったが、近年の洪水により、下流域の住宅密集地において床上等の浸水被害が発生しており、十分な治水安全度が確保されていないことから、早急な治水対策が望まれている状況である。

② 利水の概要

泊川の利水としては、農業用水としての慣行水利がある。また、上水道についてはかつて取水が行われていたが、現在は水源を地下水に求めており河川水の利用はない。なお、泊川流域においては、近年渇水被害は生じておらず、取水に支障を生じたことはない。

③ 自然環境および河川利用状況

泊川の下流域は、両岸とも護岸工が施工されているため植生に乏しいが、空石積の区間や土砂の堆積しているところではダンチク、ススキ、ミゾソバ等が繁茂している。鳥類で

は、河口でよく見られるカモメ類が見られるほか、環境省および鹿児島県のレッドデータブックで準絶滅危惧に指定されているミサゴが確認されている。魚類では、ボラ、ユゴイ、カワアナゴ、アユ等が確認されている。

中流域は、溶岩台地を浸食したV字谷を形成しており、スタジイ群落やスギーヒノキ植林が多く見られる。鳥類では山間地でよく見られるシジュウカラ、アオバト等の他カワセミが確認されており、魚類では、クロヨシノボリのみ確認されている。

上流域は、河川沿いに畑地や水田が見られ、カワラヒワ、ヒヨドリ、シロハラ等の里山で見られる鳥類が確認されている。魚類では、ボウズハゼ、クロヨシノボリの2種が確認されている。

河川利用については特に利用されていない。

水質に関しては、特に環境基準の類型指定はなされていないが、平成14年度に実施された治水基準点上流部での水質測定の結果では、BOD値で概ね0.5 mg/l以下の比較的良好な水質が保たれていた。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

鹿児島県においては、21世紀新かごしま総合計画の基本構想の中に、「健やかで個性豊かなくらしと活力ある地域の創造」、「人と自然が共生する環境にやさしい社会の実現」を掲げ、安全で快適な生活環境の創造を目指している。

泊川水系の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会・経済情勢の発展に即応できるよう、河口から一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図っていくものとする。

1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

災害の発生の防止又は軽減については、流域内資産の状況・土地利用状況の動向を勘案し、30年に1回程度の降雨により発生する規模の洪水を安全に流下させることを目指すものとする。あわせて、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過した洪水に対しても被害を最小限に止めるため、水防体制、情報連絡体制の整備等のソフト対策の充実に努める。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用及び流水の正常な機能の保全に関しては、泊川水系においては、これまで大規模な渇水被害は生じていないが、農業用水に利用されていることから、今後は河川流量等の把握に努める。

河川環境の整備と保全に関しては、治水・利水面との調和を図り、流域の動植物の生息・生育空間の保全に努める。また、人々に潤いを与える良好な河川景観を保全するなど、河川環境の計画的な保全と整備を図り、地域住民が河川に興味を持ち河川に親しみを感じるような川づくりを進めるとともに、地域と一体となった河川環境整備のための協力体制づくりに努める。特に古来より地域住民の生活と密接な関係を有している下流域については、坊野間県立自然公園の景観と調和した河川整備に努める。

3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、洪水等による災害発生の防止または軽減、水利用及び流水の正常な機能の保全、河川環境の整備と保全の観点から、地域特性を踏まえ適切に行っていくものとする。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量については、県内河川とのバランスを考慮して、30年に1回程度の降雨により発生する洪水を検討した結果、基準地点の上川床橋地点かみかわとこにおいて120 m³/sとする。

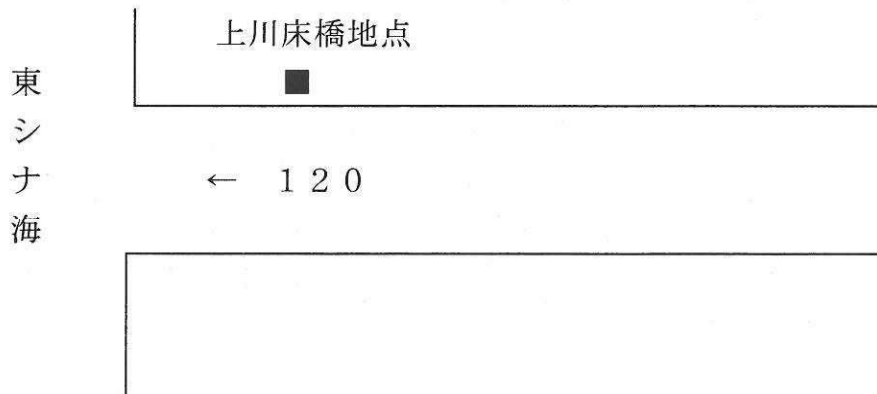
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位：m³/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	河道への配分流量
泊川	上川床橋	120	120

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

泊川における計画高水流量は、上川床橋地点において120 m³/sとする。



計画高水流量配分図

単位：m³/s

■：基準地点

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅は、次のとおりである。

河川名	地点名	河口からの距離 (k m)	計画高水位 T P (m)	川幅 (m)	摘要
泊川	上川床橋	0.60	3.91	13.5	基準地点

(注) T P : 東京湾中等潮位




(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するための必要な流量に関する事項

泊川における既得水利としては、農業用水としての慣行水利がある。

近年において濁水被害は発生しておらず、利水、取水、生態系等に支障を生じたことはない。

今後も、流況等の河川状況、河川水質、動植物の生息・生育状況等の調査・検討を継続し、流水の正常な機能の維持に努めるものとする。

(参考図) 泊川水系概要図

凡 例	
	流域界
	河 川
	基準地点

